

## 狂言学習：リハーサルを行いました（6年生）《NO.3》

11月20日（月）に、平之荘神社で、6年生が、狂言発表会のリハーサルを行いました。



### 【めあて】

- 観客に、自分の声を届ける。
- 私の演技を観てくださいという思いをもって演技をする。  
 （思いをもって演じると、観客の心に必ず届きます）

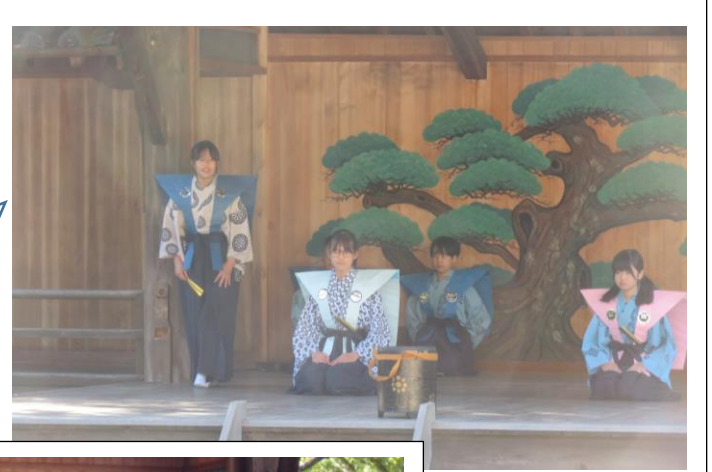
### 『附子』より



「ぐわらりん。」「ちーん。」の「ちーーーん。」と、「ちーん」を伸ばしながら言う。擬音語をあいまいにしない。擬音語を大切にする。  
 思い切って、大きな声で伝えましょう。観客の反応がきっと違います。周りの反応を感じてください。わずかなことだけでも、そこを意識してがんばってほしいです。

⊕と⊖の座る位置が前に出すぎです。次の場面の主人が歩くコースを考えて座ります。次につながっています。

主人の登場するタイミングは、①後見が座る②太郎冠者・次郎冠者が座る③（⊕⊖が座ったのを確認してから）主人がゆっくりと登場する。  
 主人は、楽しみを満喫してうきうきと帰ってきているので、にこにこしながらゆっくり歩く。



指先まで細心の注意をしましょう。指先に力が抜けてしまうと、現実世界に引き戻されてしまいます。気を抜かないようにしましょう。舞台では、指一本でも力を抜くと目立ってしまいます。  
 「あら、かしら堅やんや。」の⊕をはっきり言う。主人の頭の直前で扇子を止める。普段の自分を出さないように気をつけましょう。



【山口先生より】  
 「相対的に、『附子』はよく仕上がっています。よくできています。どこに出しても恥ずかしくありません。全然引けを取っていません。自信をもって演じましょう。」

# 『柿山伏』より



山伏の登場するスピードが、後見が登場するスピードと同じになっている。山伏は演技をするように。山伏は、鬼足を見えないところでやります。山伏は、山で修業をした『駆け出の山伏』を演じる。『駆け出の山伏』とは、山で野宿をしたり、山の中を走り回ったりして修行をし、霊力が満ち満ちた状態で、山から里へおりてきた状況。気持ちがみなぎっている状態で自身満々な山伏だから、歩き方はゆっくり歩く。

山伏の登場の仕方が大事。特に、最初の出方。山伏になりきって登場する。

「やっとな。やっとな。とどかぬ。」をしっかりと言う。



【山口先生より】  
「先週からよく稽古をしたと思います。自信をもって、思いっきりやりましょう。」

【山口先生より】「上手になっているよ。」

山伏は、扇子を真横に持つ。「こくわあー こくわあー こくわあー」を間を取りながらゆったりと言う。

【山口先生より】  
「畑主がいいタイミングで、「こくわあ、こくわあ、こくわあ」と言ってくれた。自信がついてきたかなと思って、うれしいです。」

【山口先生より】  
「よくなりました。よく稽古をしたなと思います。」



「やアとはおのれ憎い奴の。」の後、正面を向いてセリフを言いましょう。



【山口先生より】  
「上手です。羽ばたくところをしっかりと羽ばたきましよう。」